

序

1984年度に当研究所が刊行した『木器集成図録 近畿古代篇』から8年の年月を経て、その続集にあたる『近畿原始篇』を、ようやくここに世に送り出す運びとなった。前回の『近畿古代篇』が7世紀から12・13世紀の近畿地方出土木器を対象としたのに対して、本書はそれに先行する時代の木器を収録している。その点数2,480点は、年代の長さや近年の発掘にともなう出土品の急増を考えると、必ずしも十分なものとは云えないが、前篇同様、府県の枠を越えた「近畿地方出土木器の集成研究」集会の成果である。これに参加し多くの資料を教示、提供された関係機関および研究者の方々の永年の御苦勞に改めて感謝の意を表したい。編集事務局をつとめた当研究所の力不足によって生じた不備な点があれば、ご寛宥を願う次第である。本資料が前篇と同様に、あるいはそれ以上に活用され、学界に裨益することを願うと同時に、今後さらに各方面からの御協力を仰ぎ、研究の一層の進展を期したいと考えている。

平成五年三月

奈良国立文化財研究所長

鈴木 嘉 吉